

インホテル」, Lmaga.jp, 2018年12月6日
芦澤竜一研究室 (2019)「沖島に秘密基地? 流木の休憩所 今春完成予定」, 京都新聞, 2019年1月11日
芦澤竜一 (2019)「特徴的な外観 西宮にイタリア高級車ショールーム」朝日新聞, 2019年1月12日
芦澤竜一 (2019)「米原駅東口整備, 水族館は取り下げ」朝日新聞, 2018年1月30日
芦澤竜一研究室 (2019)「“沖島 100%”の憩いの空間」, リビング滋賀, 2019年3月8日
川井操研究室 (2019)「三倉岳に新公衆トイレ」中国新聞, 2019年2月18日
A. Leaño, 大野宏, 永井拓生 (2018) FINDING PEACE, BIWAKO ビエンナーレーキざし BEYOND-に関する新聞紹介記事等多数, 2018年9月~11月
松本悠以, 永井拓生 (2018) 奇想天蓋, BIWAKO ビエンナーレーキざし BEYOND-に関する新聞紹介記事等多数, 2018年9月~11月

2) TV, ラジオ番組への出演等

芦澤竜一 (2019) ABC キャスト(セトレならまち), 読売テレビ 2019年12月7日
芦澤竜一 (2019) かんさい情報ネット ten (セトレならまち), 読売テレビ 2019年12月20日
松本悠以, 永井拓生 (2018) NHK 大津「おうみ発630 知りたがりっ!」作品紹介, 奇想天蓋, 2018年10月

3) その他

生物資源管理学科

1. 受賞

重吉沙衣, 田中千尋, 宮川恒, 入江俊一, 鈴木一実, 泉津弘佐 (2018) 全ゲノム解析手法に基づく抗真菌性化合物 Tolnifanide の作用点の同定. 日本農薬学会第43回大会, 秋田市. 学生優秀発表賞 (2018年5月25日~5月27日).
重吉沙衣, 入江俊一, 鈴木一実, 宮川恒, 田中千尋, 泉津弘佐 (2018) 全ゲノム比較手法に基づく殺菌剤 Tolnifanide 新規作用点の特定. 第18回糸状菌分子生物学コンファレンス, 長岡市. 学生優秀ポスター賞 (2018年11月15日~11月16日).
梶原暢人 (須戸研究室) (2018) パッシブサンブ

リング法を用いた環境水中の農薬平均濃度の精度検証. 第36回農薬環境科学研究会シンポジウム優秀ポスター賞, 日本農薬学会 (2018年11月8日~11月9日)

北野大輔, 高倉耕一 (2018) 非成虫期ミバエ類を対象としたオンサイト分子同定法. 第30回日本環境動物昆虫学会年次大会. 京都市 優秀講演発表賞 (2018年11月17日~11月18日).

2. 著書

日本養液栽培研究会編 (2018) 養液栽培実用ハンドブック. 畑直樹, 第7章1「CO₂・温度・湿度の管理」, 誠文堂新光社, 東京.
松木洋一編 (2018) 21世紀の畜産革命—アニマルウェルフェア・フードシステムの開発—. 増田清敬・山本康貴, 第1章3「アニマルウェルフェアと消費者イメージ—有機牛乳を対象として—」, 養賢堂, 東京.
日本水環境学会関西支部川部会編 (2018) 関西の川歩き. 大久保卓也, 「赤野井湾と流入河川, 野洲川・日野川・愛知川」, 神戸新聞総合出版センター, 神戸.
山口裕文監, 宮浦理恵, 松浦賢一, 下野嘉子編 (2018) 雑草学入門. 高倉耕一, 第3章2「繁殖干渉と雑草の分布—オナモミ類とイヌノフグリ類を事例として」, 講談社, 東京.
高倉耕一, 西田隆義編 (2018) 繁殖干渉. 名古屋大学出版会, 名古屋.

3. 論文

原田英美子 (2018) 研究不正とアカデミックハラスメントに負けないための研究倫理教育—滋賀県立大学新規開講科目環境研究倫理特論. 日本の科学者, 53: 570-574.
Nagakawa Y, M. Uemoto, T. Kurosawa, K. Shutoh, H. Hasegawa, N. Sakurai and E. Harada (2019) Comparison of radioactive and stable cesium uptake in aquatic macrophytes affected by the Fukushima Dai-ichi Nuclear Power Plant accident. Journal of Radioanalytical and Nuclear Chemistry 319: 185-196.
南川久人, 松村愔, 畑直樹, 原田英美子, 栗本遼, 安田孝宏, 宮寄一樹 (2018) マイクロバブルのゼータ電位が水耕コマツナの生育に及ぼす影響. 実験力学 18: 214-221.
Ohtsuka, T., M. Tomotsune, V. Suchewaboripont, Y. Iimura, N. Kida, S. Yoshitake, M. Kondo and K. Kinjo (2019) Stand dynamics and aboveground

- net primary production of a mature subtropical mangrove forest on Ishigaki Island, south-western Japan. *Regional Studies in Marine Science*, in press.
- Tomotsune, M., S. Yoshitake, Y. Iimura, M. Kida, N. Fujitake, H. Koizumi and T. Ohtsuka (2018) Effects of soil temperature and tidal condition on variation in CO₂ flux from soil sediment in a subtropical mangrove forest. *Journal of Tropical Ecology* 34: 268-275.
- Kida, M., N. Fujitake, V. Suchewaboripont, S. Pongparn, M. Tomotsune, M. Kondo, S. Yoshitake, Y. Iimura, K. Kinjo, C. Maknual and T. Ohtsuka (2018) Contribution of humic substances to dissolved organic matter optical properties and iron mobilization. *Aquatic Sciences* 80:26.
- Awala, S. K., K. Yamane, Y. Izumi, O. D. Mwandemele, and M. Iijima (2019) Alleviative effects of mixed-cropping with rice on the inhibition of physiological activities and growth of pearl millet caused by flooding at reproductive stage. *J. Crop Improv.* 33: 42-52.
- Chen, D., H. Masumoto, Y. Kitade, K. Izumitsu and C. Tanaka (2018) Genetic analyses of reddish-brown polyoxin-resistant mutants of *Bipolaris maydis*. *Mycoscience* 59: 236-246.
- Kadooka, C., K. Izumitsu, M. Onoue, K. Okutsu, Y. Yoshizaki, K. Takamine, M. Goto, H. Tamaki and T. Futagami (2019) Mitochondrial citrate transporters CtpA and YhmA are required for extracellular citric acid accumulation and contribute to cytosolic acetyl-CoA generation in *Aspergillus luchuensis* mut. Kawachii. *Applied and Environmental Microbiology* DOI: 10.1128/AEM.03136-18.
- Masuda, K., and S. Kushiro (2018) Influence of brand equity on the price premium for private labels in fresh produce: a contingent valuation survey, *Agribusiness* 34: 338-350.
- Sudo, M., Y. Goto, K. Iwama and Y. Hida (2018) Herbicide discharge from rice paddy fields by surface runoff and percolation flow: A case study in paddy fields in the Lake Biwa Basin, Japan. *Journal of Pesticide Science* 43 (1) : 24-32.
- Goto, Y. and M. Sudo (2018) Uptake and elimination kinetics of trifluralin and pendimethalin in *Pheretima* spp. and *Eisenia* spp.. *Environmental Science and Pollution Research*. 25 (13) :12352-12360.
- Sugiura, S. H. (2018) Phosphorus, aquaculture, and the environment. *Reviews in Fisheries Science & Aquaculture*, 26 (4) , 515-521.
- Yokoyama, A., K. Izumitsu, T. Sumita, C. Tanaka, T. Irie and K. Suzuki (2018) Homeobox transcription factor CoHox3 is essential for appressorium formation in the plant pathogenic fungus *Colletotrichum orbiculare*. *Mycoscience* 59: 353-362.
- Yokoyama, A., K. Izumitsu, T. Irie and K. Suzuki (2019) Homeobox transcription factor CoHox1 is required for the morphogenesis of infection hyphae in host plants and pathogenicity in *Colletotrichum orbiculare*. *Mycoscience* 60: 110-115.
- Kitano D., N. Fujii, Sujiono, S. Yamaue, T. Kitamura, A. Honma, M. Tsukada, T. Nishida, H. Sawada and K. I. Takakura (2018) Reproductive interference between two serious pests, oriental fruit flies *Bactrocera carambolae* and *B. dorsalis* (Diptera: Tephritidae), with very wide but partially overlapping host ranges. *Appl. Zool. Entomol.* 53: 525-533.
- Morii K and K. I. Takakura (2018) Age class structure of spawning populations of two endangered endemic striated spined loaches in Lake Biwa river system. *Jpn. J. Environm. Zool. Entomol* 29: 135-141.
- Morii K., M. Nakano and K. I. Takakura (2018) Does simultaneous and sympatric reproduction between two native spined loaches lead to reproductive interference and local extinction? *Environmental Biology of Fishes*. 101: 1407-1416.
- Morii K., M. Nakano, T. Nishida and K. I. Takakura (2018) Growth patterns of juveniles observed at a shared spawning site in two closely related species of spined loaches endemic to the Lake Biwa riverine system; *Cobitis magnostriata* and *C. minamorii oumiensis*. *Jpn. J. Environm. Zool. Entomol* 29: 49-56.

(なし)

5. 報告書, その他著作, 一般向け記事

1) 科研費他外部研究費による研究の成果報告書
(なし)

2) 受託研究等の報告書

須戸幹 (2018) 畑地、果樹園、転作田に由来する農薬の河川水における残留リスク評価と浄水過程におけるリスク軽減対策河川整備基金助成事業 2018 年.

3) ハンドブック, 辞典, 図鑑などへの執筆
(なし)

4) 新聞, 一般向け雑誌等への解説記事など

畑直樹 (2018) ニュースレター, 養液栽培研究会 編 59: 11-12.

畑直樹 (2018) ニュースレター, 養液栽培研究会 編 60: 11-12.

森井清仁, 高倉耕一 (2018) 農環境改変に起因する繁殖干渉とその影響による絶滅: スジシマドジョウ類での検証. 昆虫と自然 53(8): 35-38.

6. 学会等への発表

宮寄一樹, 松村愔, 南川久人, 安田孝宏, 栗本遼, 畑直樹, 原田英美子 (2018) ゼータ電位の異なるマイクロバブルがコマツナの生育に与える影響 (生育実験と元素分析). 日本混相流学会混相流シンポジウム 2018, 仙台市 (2018 年 8 月 8 日~8 月 10 日).

原田英美子, 浦部美佐子, 楠本高義, 高倉耕一, 西田隆義, 丸尾雅啓 (2017) アクティブ・ラーニングを利用した実践的研究倫理教育の実践 (2018) 第 36 回日本植物細胞分子生物学会, 金沢市 (2018 年 8 月 26 日~8 月 28 日).

原田英美子, 沼田はるな, 柳崎祥希, 小野夏実, 稗田真也, 野間直彦, 岩間憲治, 吉山浩平 (2018) 絶滅危惧種タチスズシロソウ (*Arabidopsis kamchatica* ssp. *kawasakiana*) の個体数に影響する環境要因. 日本植物学会第 82 回大会, 広島市 (2018 年 9 月 14 日~9 月 16 日).

原田英美子 (2018) 研究不正問題の包括的理解と実践的な解決法の探索. 日本分子生物学会第 40 回年会, 横浜市 (2018 年 11 月 28 日~11 月 30 日).

稗田真也, 渡部俊太郎, 原田英美子, 野間直彦 (2019)

西日本に侵入したオオバナミズキンバイ (広義) のクローン構造について. 関西自然保護機構 2019 年度大会, 大阪市東住吉区 (2019 年 3 月 3 日).

稗田真也, 渡部俊太郎, 原田英美子, 野間直彦 (2019) 特定外来生物オオバナミズキンバイ (広義) の西日本におけるクローン構造. 日本植物分類学会第 18 回大会, 八王子市 (2019 年 3 月 7 日~3 月 9 日).

原田英美子, 浦部美佐子, 楠本高義, 高倉耕一, 畠佐代子, 西田隆義, 丸尾雅啓 (2019) 「環境研究倫理特論」実施 2 年目の現状と課題. 日本植物生理学会第 60 回年会, 名古屋市 (2019 年 3 月 13 日~3 月 15 日).

吉山浩平, 柳崎祥希, 沼田はるな, 原田英美子 (2019) 絶滅危惧種タチスズシロソウのトライコーム数を調節する環境要因について. 日本生態学会第 66 回全国大会, P2-105, 神戸市 (2019 年 3 月 15 日~3 月 19 日).

原田英美子, 藤村麻由, 大塚萌生, 中川沙耶, 飯村康夫 (2019) 石灰岩土壌がアブラナ科植物の無機栄養吸収に及ぼす影響. 日本農芸化学会 2019 年度大会 (2019 年 3 月 24 日~3 月 27 日).

小川友路, 伊達修一, 松浦健人, 畑直樹, 寺林敏 (2018) 人工光型植物工場でのゴマ幼植物体の栽培における連続照明条件下での日温度差が葉の褐変に及ぼす影響. 園芸学会平成 30 年度秋期大会, 鹿児島市 (2018 年 9 月 22 日~9 月 24 日).

畑直樹, 刘鑫, 田口夏帆, 金本良成, 吉田弦, 瀬山智博, 戸田龍樹, 伴修平 (2018) 琵琶湖で繁茂する水草を原料としたメタン発酵消化液の水耕栽培における利用可能性. 園芸学会平成 30 年度秋期大会, 鹿児島市 (2018 年 9 月 22 日~9 月 24 日).

畑直樹, 徐海竜 (2019) 人工光型植物工場における 24 時間日長を活用した高付加価値野菜生産 (第 1 報) 日長および施用窒素形態がリーフレタスの生育に及ぼす影響. 園芸学会平成 31 年度春期大会, 川崎市 (2019 年 3 月 23 日~3 月 24 日).

畑直樹, 徐海竜 (2019) 人工光型植物工場における 24 時間日長を活用した高付加価値野菜生産 (第 2 報) 日長および施用窒素形態がリーフレタスの品質に及ぼす影響. 園芸学会平成 31 年度春期大会, 川崎市 (2019 年 3 月 23 日~3 月 24 日).

飯村康夫, 夏原雅明 (2018) バイオチャーの添加

- に伴う土壌有機物分解速度変化 2018, 日本腐植物質学会, 東京(2018年11月23~11月23日).
- 樽林俊樹, 井本篤志, 杉浦省三, 泉津弘祐, 鈴木一実, 入江俊一 (2018) *Pleurotus ostreatus* によるクズの魚類用飼料への変換, 日本菌学会第62回大会, 信州大学 (2018年5月25日~5月27日).
- Imoto, A., T. Kurebayashi, S. Sugiura, K. Izumitsu, K. Suzuki and T. Irie (2018) Conversion of *Pueraria montana* to a fish feed by *Pleurotus ostreatus*. IMC11: The 11th International Mycological Congress, San Juan, Puerto Rico (2018年7月16日~7月21日).
- 入江俊一, 井本篤志, 酒井瞳美, 杉浦省三, 泉津弘祐, 鈴木一実 (2018) ヒラタケを用いたクズ葉のタンパク質資源への変換, 日本きのこ学会第22回大会, 函館アリーナ (2018年9月12日~9月14日).
- 飯嶋盛雄, 泉泰弘, 山根浩二, 廣岡義博 (2018) 亀裂施肥によるダイズの耐湿性強化, 第246回日本作物学会講演会, 北海道大学農学部 (2018年9月5日).
- 庄司浩一, 廣岡義博, 渡邊芳倫, 泉泰弘, 飯嶋盛雄 (2019) ナミビア季節性湿地帯における畝立て方法がトウジンビエおよびササゲの生育・収量に与える影響, 平成30年度農業機械開発改良試験打合せ会議 (2019年3月15日).
- 重吉沙衣, 田中千尋, 宮川 恒, 入江俊一, 鈴木一実, 泉津弘祐 (2018) 全ゲノム解析手法に基づく抗真菌性化合物 Tolnifanide の作用点の同定. 日本農薬学会第43回大会, 秋田市 (2018年5月25日~5月27日).
- 重吉沙衣, 入江俊一, 鈴木一実, 宮川 恒, 田中千尋, 泉津弘祐 (2018) 全ゲノム比較手法に基づく殺菌剤 Tolnifanide 新規作用点の特定. 第18回糸状菌分子生物学コンファレンス, 長岡市 (2018年11月15日~11月16日).
- 竹村綾乃, 奥谷美季, 入江俊一, 鈴木一実, 泉津弘祐 (2018) トウモロコシごま葉枯病菌における NADPH オキシダーゼ遺伝子群の機能解析. 第18回糸状菌分子生物学コンファレンス, 長岡市 (2018年11月15日~11月16日).
- 前田和穂, 松永有佳理, 広瀬優樹, 重吉沙衣, 田中千尋, 入江俊一, 鈴木一実, 泉津弘祐 (2018) 外生菌根菌ホンシメジにおける2種の MAP kinase の遺伝子破壊および機能解析. 第18回糸状菌分子生物学コンファレンス, 長岡市 (2018年11月15日~11月16日).
- 門岡千尋, 泉津弘祐, 浅井禎吾, 奥津果優, 吉崎由美子, 高峯和則, 後藤正利, 玉置尚徳, 二神泰基 (2018) 白麹菌 *Aspergillus kawachii* における RNA 結合タンパク質 NrdA の機能解析. 第18回糸状菌分子生物学コンファレンス, 長岡市 (2018年11月15日~11月16日).
- 吉見啓, 泉津弘祐, 宮澤拳, 鈴木一実, 阿部敬悦 (2018) 植物病原糸状菌における細胞外分泌多糖ガラクトサミノガラクトサンの機能解析. 第18回糸状菌分子生物学コンファレンス, 長岡市 (2018年11月15日~11月16日).
- 増田清敬 (2018) 作付規模拡大による米生産の環境効率改善効果—LCA+DEA 統合手法の適用—, 第68回地域農林経済学会大会, 東京農業大学, 東京都世田谷区 (2018年10月12日~10月14日).
- 皆川明子, 大久保卓也 (2018) 排水路に施工された魚溜工への土砂堆積の実態, 農業農村工学会平成30年度大会講演会, 京都市 (2018年9月4日~9月6日).
- 皆川明子 (2018) 伝統的な水田水域と圃場整備された水田水域における魚類の繁殖と保全, 応用生態工学会第22回大会, 東京都 (2018年9月22日).
- 森山直樹, 皆川明子 (2018) 既設の一筆排水管を利用したコルゲート式水田魚道の設置事例, 第75回農業農村工学会京都支部研究発表会, ウィンクあいち, 名古屋市 (2018年11月7日).
- 伊藤弘太, 境宏貴, 山口晟司, 古田晋一郎, 大久保卓也 (2018) 農業排水路に設置した人工産卵床による在来魚の増殖方法の検討, 農業農村工学会年会, 京都市 (2018年9月5日).
- 伊藤弘太, 境宏貴, 山口晟司, 古田晋一郎, 大久保卓也 (2018) 農業排水路に設置した人工産卵床を用いた簡易な在来魚増殖方法の検討. 日本魚類学会, 東京都 (2018年10月6日~10月7日).
- 境宏貴, 伊藤弘太, 古田裕也, 大久保卓也 (2018) 外来魚による在来魚捕食防御のための魚礁構造の検討. 日本魚類学会, 東京都 (2018年10月6日~10月7日).
- 閻雨佳, 須戸幹, 大久保卓也 (2018) 除草剤プレチラクロールがニゴロブナの孵化及び仔魚に及ぼす影響. 日本魚類学会, 東京都 (2018年10月6日~10月7日).
- 山口晟司, 伊藤弘太, 大久保卓也, 大植伸之 (2018) 農業排水路に設置した人工産卵床による在来魚の増殖方法の検討. 日本水産学会近畿

- 支部後期例会, 草津市 (2018年12月8日).
- 閻雨佳, 須戸幹, 大久保卓也 (2019) 除草剤プレチラクロール, チオベンカルブがニゴロブナの孵化及び仔魚に及ぼす影響. 日本水環境学会, 甲府市 (2019年3月7日~3月9日).
- 橋本康史, 山崎将紀, 清水顕史 (2019) 低リン水田で栽培したイネの収量関連形質のゲノム解析. 日本育種学会第135回講演会, 千葉市 (2019年3月17日).
- 吉村康平, 梶原暢人, 須戸幹 (2019) コムギ転作田からの降雨時の農薬流出メカニズム. 第53回日本水環境学会年会, 山梨大学 (2019年3月7日~3月9日).
- 梶原暢人, 吉村康平, 須戸幹, 西川朋希 (2019) 環境要因を考慮したパッシブサンプリング法による環境水中の農薬濃度. 第53回日本水環境学会年会, 山梨大学 (2019年3月7日~3月9日).
- 川寄悦子, 鎌田素之, 久保明日香, 中田俊芳, 須戸幹 (2019) フェニルピラゾール系殺虫剤とその分解物の神奈川県内河川における存在実態調査報告. 第49回滋賀県公衆衛生学会, 大津市 (2019年2月23日).
- 吉村康平, 梶原暢人, 須戸幹 (2018) コムギ転作田からの農薬の流出特性と流出負荷量. 第36回農薬環境科学研究会シンポジウム, 甲府市 (2018年11月8日~11月9日).
- 梶原暢人, 吉村康平, 須戸幹 (2018) パッシブサンプリング法を用いた環境水中の農薬平均濃度の精度検証. 第36回農薬環境科学研究会シンポジウム, 甲府市 (2018年11月8日~11月9日).
- 川寄悦子, 鎌田素之, 久保明日香, 中田俊芳, 須戸幹 (2018) 神奈川県内河川におけるフェニルピラゾール系殺虫剤とその分解物の残留実態調査. 第30回環境システム計測制御学会 (EICA) 研究発表会, 大阪市 (2018年11月6日~11月7日).
- 鎌田素之, 久保明日香, 川寄悦子, 中田俊芳, 須戸幹 (2018) 神奈川県内河川におけるフェニルピラゾール系殺虫剤とその分解物の存在実態. 第27回環境化学討論会, 沖縄 (2018年5月22日~5月25日).
- 杉浦省三, 高橋克幸, 小林佳瑚 (2019) 肥育飼料によるクララとカイヤンのウナギ風蒲焼の試作. 平成31年度日本水産学会春季大会, 東京海洋大学品川キャンパス (2019年3月26日~3月29日).
- 北野大輔, 高倉耕一 (2019) 調査地で実施可能な非成虫期ミバエ類の分子同定法. 第63回日本応用動物昆虫学会大会. つくば市 (2019年3月25日~3月27日).
- 久岡知輝, 日高直哉, 藤井暢之, Sujiono, Surono, Imroni Ahumad, 籠洋, 本間淳, 北野大輔, N. Firdaus, 高倉耕一, 塚田森生, 西田隆義, 沢田裕一 (2019) 季節消長から辿るミカンコミバエ種群2種にはたらく野外での繁殖干渉の可能性. 第63回日本応用動物昆虫学会大会. つくば市 (2019年3月25日~3月27日).
- 森井清仁, 高倉耕一 (2019) 長寿は絶滅へのカウントダウン: 絶滅が危惧されるスジシマドジョウ2種の年級群構成. 第66回日本生態学会大会. 神戸市 (2019年3月15日~3月19日).
- 高倉耕一 (2018) 滋賀県立大学における「環境研究倫理特論」: 開講前後の経緯を中心に. 第41回日本分子生物学会年会. 横浜市 (2018年11月28日~11月30日).
- 大見智之, 高倉耕一 (2018) ツバメ (*Hirundo rustica*) の営巣密度と土地利用の影響調査を通じた生物保全のための営巣場所周辺土地利用の評価. 第30回日本環境動物昆虫学会年次大会. 京都市 (2018年11月17日~11月18日).
- 森井清仁, 高倉耕一 (2018) ピワコガタスジシマドジョウにおける繁殖個体群の高齢化と絶滅のリスク. 第30回日本環境動物昆虫学会年次大会. 京都市 (2018年11月17日~11月18日).
- 北野大輔, 高倉耕一 (2018) 非成虫期ミバエ類を対象としたオンサイト分子同定法. 第30回日本環境動物昆虫学会年次大会. 京都市 (2018年11月17日~11月18日).
- 上町達也, 前田彩子, 小林良乃, 川村優理子, 竹内俊輝 (2019) アジサイの装飾花形成時における *SEPALLATA* 相同遺伝子の発現解析. 園芸学会平成31年度春季大会, 川崎市 (2019年3月23日~3月24日).

7. 研究会等, 講演会, 特別講義での発表

1) 研究会等における発表

- 原田英美子 (2018) 水生植物も活かせば資源. びわ湖環境ビジネスメッセ2018共催セミナー・琵琶湖資源の利活用に向けた新たな展開の模索, 長浜市 (2018年10月17日).
- 原田英美子 (2018) 事例から学ぶ実践的研究倫理教育. 平成30年度滋賀県立大学工学部人権問題研修会, 彦根市 (2018年12月12日).
- 藤村麻由, 原田英美子 (2019) 石灰岩土壌で栽培したイブキダイコンの特徴. 里山里地イノベーション, 彦根市 (2019年3月23日).

中島優介, 原田英美子 (2019) 伊吹山に自生するヨーロッパ原産の帰化植物に関する研究—移入経路の解明と緑化への利用—. 里山里地イノベーション, 彦根市 (2019年3月23日).

今井香那, 原田英美子 (2019) ゲノム情報と形態的特徴を併用した沈水植物の種判別法の確立. 里山里地イノベーション, 彦根市 (2019年3月23日).

鋒山大輝, 原田英美子 (2019) オオカナダモ (*Egeria densa*) の Mn 集積機構を利用した生物模倣材料の探索. 里山里地イノベーション, 彦根市 (2019年3月23日).

原田英美子 (2018) 水生植物のバイオサイエンスと有効利用法開発. 大学院研究交流会 2018. 彦根 (2018年9月19日).

伴修平, 畑直樹 (2018) 外来水草のメタン発酵処理等に関する研究. 水陸両生の侵略的外来植物の管理に関するワークショップ, 滋賀県立琵琶湖博物館 (2018年8月28日).

井本篤志, 杉浦省三, 須戸幹, 泉津弘佑, 鈴木一実, 入江俊一 (2018) ヒラタケを用いたクズ葉のタンパク質資源への変換, 大学院研究交流会 2018, 滋賀県立大学 (2019年9月19日).

宮本治人, 上辻久敏, 泉津弘佑, 鈴木一実, 入江俊一 (2018) 酸素抑制シイタケにおける発現遺伝子変動, 大学院研究交流会 2018, 滋賀県立大学 (2019年9月19日).

宮本治人 (2018) 酸素抑制シイタケにおける発現遺伝子変動, 平成30年度彦根東高校SSHサイエンスフェスティバル, 彦根東高校 (2019年3月8日).

大久保卓也, 皆川明子 (2018) 琵琶湖沿岸の水田地域での在来魚保全について. 平成30年度第7回魚道ワークショップ, 東京都 (2018年6月27日).

山口晟司, 伊藤弘太, 大久保卓也, 大植伸之, 黒橋典夫, 坂井喜一郎 (2017) 農業排水路に設置した人工産卵床による在来魚の増殖方法の検討. 第9回琵琶湖地域の水田生物研究会, 草津市 (2018年12月16日).

上町達也 (2018) 日本に自生するヤマアジサイ, エゾアジサイ, ガクアジサイの分布と系統分化, 第11回伝統園芸研究会, 鹿児島市 (平成30年9月21日)

2) 講演会

原田英美子 (2018) 研究不正とアカデミックハラスメントに負けないための研究倫理教育プログ

ラム構築. 日本科学者会議 第22回総合学術研究会集, 那覇市 (2018年12月7日~12月9日).

入江俊一 (2018) 生シイタケの品質維持技術とヒラタケを用いた未利用植物資源の飼料化, 平成31年滋賀植物病理懇話会, 立命館大学びわこ・くさつキャンパス (2019年1月26日).

皆川明子 (2018) 田んぼが育む生きものと人のにぎわいを守る取組, 三重県環境学習指導者養成スキルアップ講座, 三重県みどり共生推進課・三重県環境学習情報センター, 三重県総合文化センター (2018年10月20日).

大久保卓也 (2019) 魚の分布と環境との関係—琵琶湖流入河川での調査結果から—, 平成30年度滋賀県立大学春期公開講座, 彦根市 (2019年5月12日).

須戸幹 (2018) 海外でオオミズバナキンバイ駆除に実績のある除草剤の環境水中残留濃度とその分析法, 水陸両生の侵略的外来植物の翰林に関するワークショップ, 琵琶湖博物館 (2018年8月28日).

須戸幹 (2018) 農地に散布された農薬の行方, 福井県環境保全型農業研修会, 福井市 (2018年12月3日).

高倉耕一 (2018) 個体群シミュレーションの概要と交雑オオサンショウウオ問題への応用. 第32回京都大学地球環境フォーラム「人とオオサンショウウオとの関わり, 京都大学 (2018年10月27日).

3) 授業

Harada E. (2019) Understanding Vietnam in the point of view of natural resources. Danang University, Danang, Vietnam (2019年3月5日).

飯村康夫 (2018) Soil Science. 日本-ノルウェー共同教育プログラム (JANATEX), 国立極地研究所 (2018年4月20日).

飯村康夫 (2018) 土と地球温暖化?. 高大連携事業, 滋賀県立大学 (2018年9月13日).

入江俊一 (2018) DNAの切断, 結合, 大腸菌の形質転換. 滋賀県立大学・虎姫高等学校高大連携事業, 滋賀県立大学 (2018年8月21日).

入江俊一 (2018) 食用菌類による未利用植物資源のバイオマス変換. 地域環境科学特別講義VI. 京都大学 (2018年8月2日~8月3日).

入江俊一 (2018) きこのこの産業的利用. バイオ環境化学特別講義 I・III. 北見工業大学 (2018年9月20日~9月21日).

増田清敬 (2018) 環境にやさしい農作物の生産と消費, 滋賀県立高等学校生徒を対象とする大学連続講座, 滋賀県立大学 (2018年8月1日).

高倉耕一 (2018) 進化生態学入門講座. 滋賀県立大学・虎姫高等学校高大連携事業, 滋賀県立大学 (2018年8月22日).

高倉耕一 (2017) オスとメスの争いが形作る生物社会. 茨木高校学問発見講座, 茨木高校 (2018年7月14日).

8. 展覧会等 (なし)

9. 競争的研究資金の導入

1) 本学特別研究

上河原献二, 伴修平, 畑直樹, 野間直彦, 須戸幹. 湖沼周辺における水陸両生外来水生植物管理. 特別研究, 平成29~31年度, 425万円.

飯村康夫, 増田清敬, 尾坂兼一. 特別研究, バイオチャーを活用した次世代型水田土壌の創生, 平成29~30年度, 99万円.

大久保卓也, 須戸幹, 皆川明子. 水田地域の生態系保全技術の指針作り. 特別研究, 平成28~30年度, 354万円.

2) 科学研究費補助金

飯村康夫, 泉津弘佑, 藤嶽暢英. プライミング効果による土壌炭素分解: 温暖化応答メカニズムの解明. 基盤研究 (C), 平成29~31年度, 80万円.

小泉博, 飯村康夫, その他4名. バイオチャーを用いた森林における炭素隔離効果と生態系応答機構の解明. 基盤研究 (A), 平成27~30年度, 50万円.

田中健太, 丑丸敦史, 飯村康夫. 植生履歴が草原の生物圏に与える影響: 古い草原の歴史的価値. 基盤研究 (C), 平成29~31年度, 30万円.

渡辺隆司, 入江俊一, 磯崎勝弘, 西村裕志, 片山正人. リグニン認識機能を賦与した人工酵素触媒の合成によるバイオマス分解新戦略. 基盤研究 (A), 平成28~30年度, 208万円.

泉津弘佑. 順遺伝学および逆遺伝学的手法を用いた外生菌根菌ホンシメジの共生研究基盤の開発. 若手研究 (B), 平成30~31年度, 130万円.

増田清敬. ライフサイクルアセスメントと包絡分析法の統合によるわが国の水稻栽培の環境効率分析, 基盤研究 (C), 平成29~31年度, 30万円.

皆川明子. 環境配慮型圃場整備を行った農業排水路における魚類保全効果の検証, 若手研究 (B), 平成28~30年度, 110万円.

清水顕史. 低肥料環境の収量性限界突破に寄与するイネ遺伝子座および座間相互作用の解析, 基盤研究 (C), 2018~2020年度, 200万円 (2018年度).

鈴木一実, 泉津弘佑. 植物病原菌類の病原性発現におけるホメオボックス転写因子の役割および進化, 基盤研究 (C), 平成29~31年度, 110万円.

高倉耕一, 西田隆義. シマドジョウ種群の繁殖干渉: 農環境の変化による稀少種間の同所的繁殖と絶滅リスク. 基盤研究 (C), 平成29~31年度, 120万円.

上町達也. アジサイにおける異形型の花弁状がく片の形成機構の解明, 基盤研究 (C) 平成30~令和2年度, 平成30年度200万円.

3) 政府および地方公共団体 (関連法人を含む) からの補助金
(なし)

4) その他財団からの研究補助金

須戸幹. 財団法人河川環境管理財団, 畑地、果樹園、転作田由来農薬の河川水中における残留特性の解析と水道水源としてのリスク評価, 平成27年度, 100万円.

5) 受託研究の受け入れ

畑直樹. 植物に与える刺激やストレスを加えた栽培・育成指導. 学術指導, 平成30~31年度, 55万円.

入江俊一. 県内食用キノコの増収と品質保持及び機能性成分増量技術等の開発. 岐阜県森林研究所, 平成30年度, 40万円.

10. 研究員の受入

高倉耕一. 寺本憲之 (客員研究員) (2018年4月1日~2019年3月31日).

高倉耕一. 畠佐代子 (客員研究員) (2018年4月1日~2019年3月31日).

11. 特許, 実用新案, 品種登録, 意匠, その他著作権に関わる事項
(なし)

12. 社会への貢献

1) 各種委員会

原田英美子, 滋賀県農林水産関係試験研究外部評価委員 (2018年9月1日~2019年3月31日).

入江俊一, 滋賀バイオサロン, 委員 (2018年4月~2019年3月).

皆川明子, 滋賀県環境影響評価審査会, 委員, 2回 (2018年4月~2019年3月).

皆川明子, 滋賀県農政水産部建設工事等総合評価委員会, 委員 (2018年5月~2019年3月).

皆川明子, 豊岡河川国道事務所 下鶴井地区圃場復元検討会, 委員, 1回 (2018年5月~2019年3月).

皆川明子, 兵庫県コウノトリ野生化対策懇話会, 委員, 1回 (2018年8月~2019年3月).

大久保卓也, (滋賀県農林水産関係試験研究外部評価委員 (2019年9月~2021年8月)).

須戸幹, 水産動植物登録基準設定検討会(環境省), 委員, 4回 (2018年4月~2019年3月).

須戸幹, PRTR 非点源排出量推計方法検討会 (環境省), 委員, 1回 (2018年4月~2018年3月).

須戸幹, 近畿農政局農業農村整備事業等事業評価技術検討委員会, 委員, 4回(2018年4月~2019年3月).

須戸幹, 赤野井湾流域協議会 (滋賀県), 委員, 1回 (2018年4月~2019年3月).

須戸幹, リサイクル製品認定懇話会委員 (滋賀県), 委員, 1回, (2018年4月~2019年3月).

須戸幹, 大津市環境審議会 (大津市), 委員, 1回 (2018年4月~2019年3月).

須戸幹, 膳所高校スーパーサイエンスハイスクール運営指導委員会委員, 2回 (2018年4月~2019年3月).

須戸幹, 青少年のための科学の祭典滋賀大会, 副実行委員長, 4回(2018年5月~2018年12月).

須戸幹, 農薬残留対策総合調査水質農薬残留調査 (環境省), 検討委員, 2回 (2018年10月~2019年3月).

須戸幹, 水域における農薬の慢性影響評価に関する検討会およびWG (環境省), 委員, 2回 (2018年4月~2019年3月).

須戸幹, 栗東市環境センター運営協議会(栗東市), 委員, 1回 (2018年4月~2019年3月).

鈴木一実, 湖南省環境審議会委員, 3回 (2018年9月, 2018年12月, 2019年3月).

鈴木一実, 滋賀県農業大学校外部評価委員, 1回 (2019年1月).

高倉耕一, 京都市外来種チュウゴクオオサンショウウオ対策検討委員会委員, 1回(2019年3月).

2) 学会貢献

畑直樹, 日本養液栽培研究会運営委員 (2018年4月~2019年3月).

飯村康夫, 日本腐植物質学会常任評議員 (2018年1月~現在).

泉泰弘, 近畿作物・育種研究会会計幹事 (2018年4月~2019年3月)

泉津弘佑, 関西病虫害研究会編集委員 (2018年4月~2019年3月).

泉津弘佑, 日本農薬学会編集委員 (2018年4月~2019年3月).

増田清敬, 地域農林経済学会常任編集委員 (2018年4月~10月).

増田清敬, 地域農林経済学会編集委員(2018年11月~2019年3月).

大久保卓也, 日本水環境学会関西支部支部長 (2018年4月~2019年3月).

大久保卓也, 日本水環境学会理事 (2018年4月~2019年3月).

清水顕史, 近畿作物育種研究会庶務幹事 (2018年4月~2019年3月).

須戸幹, 日本水環境学会水環境学会関西支部理事 (2017年4月~2019年3月).

須戸幹, 日本農薬学会農薬環境科学研究会委員 (2018年4月~2019年3月).

須戸幹, 環境技術学会理事 (2018年4月~2020年3月).

高倉耕一, 日本環境動物昆虫学会編集委員長 (2018年4月~2019年3月).

高倉耕一, 日本環境動物昆虫学会評議員 (2018年4月~2019年3月).

高倉耕一, 日本環境動物昆虫学会理事 (2018年4月~2019年3月).

高倉耕一, 関西自然保護機構編集委員 (2018年4月~2019年3月).

上町達也, 園芸学会近畿支部評議員 (2018年4月~2019年3月).

3) 国際貢献

大久保卓也, 農村面源汚染 (人の生活と健康への影響、概論), JICA 研修講師, 大津市 (2018年7月10日).

大久保卓也, 中国遼寧省水環境視察団対応 (2019年2月15日).

須戸幹, 洞庭湖一琵琶湖水生態環境シンポジウム (2018年11月10日~11月14日).

4) その他

畑直樹，大阪大学大学院工学研究科招へい研究員
(2018年4月～2019年3月)。

13. マスメディアとの対応

1) 新聞、雑誌等からの取材による記事

高倉耕一，原田英美子 (2018) 防げ研究不正 大学の
一手，朝日新聞大阪本社版夕刊 (2018年4月
12日)。

原田英美子 (2018) 教えて！日本の「科学力」5
研究不正 なぜ起きるの，朝日新聞朝刊 (2018
年10月3日)。